

おもシロ！城郭つうしん 第6回

大澤寺文書

<大河ドラマで注目の石川数正>

第6回は、今年のNHK大河ドラマ「どうする家康」で初回から活躍している人物を紹介しましょう。それは松重豊さんが演じるあの人「石川数正」です。

大澤寺だいさくじとは、大町市にあるお寺です。このお寺に対して天正18年(1590)9月4日づけで「禁制きんせい」(ものごとを禁じる命令)が出されました。その内容は以下の通りです(『信濃史料』17巻 巻頭

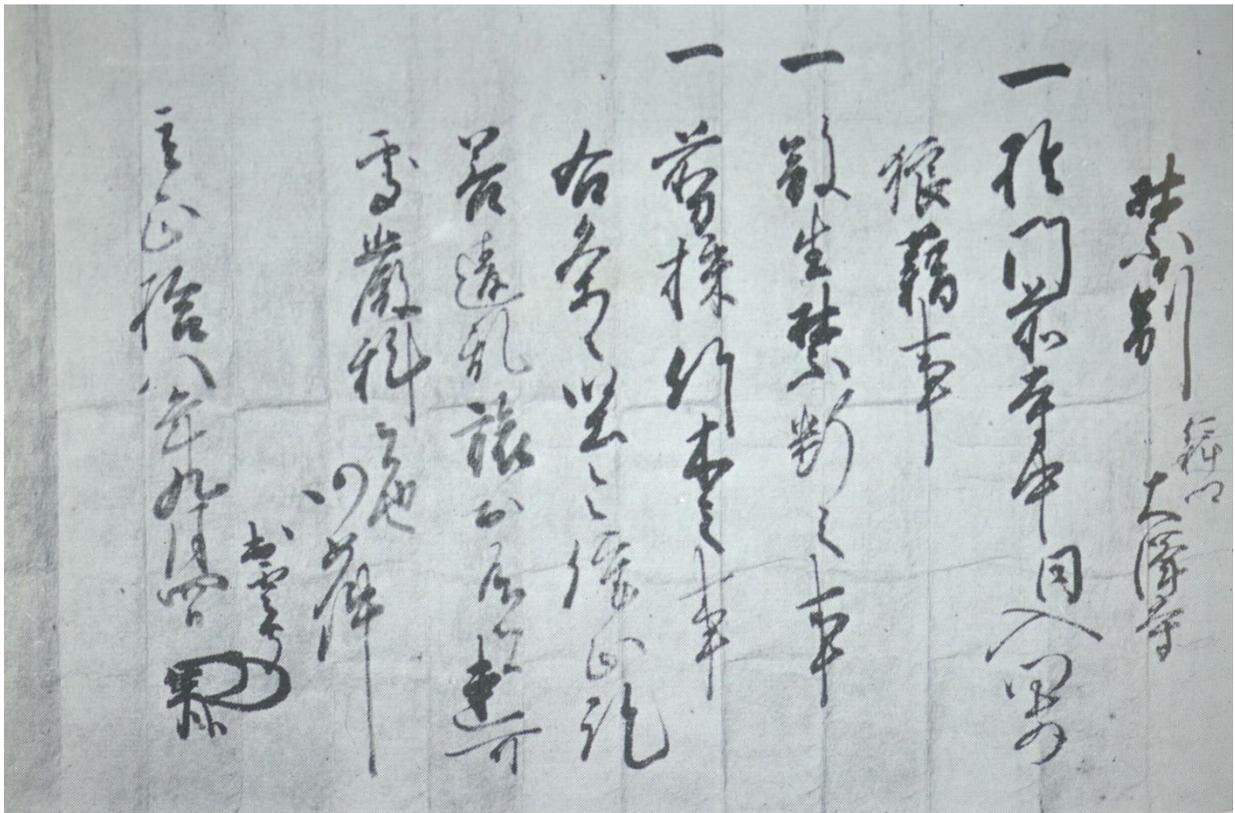


写真)。

この「禁制」とは大澤寺のお坊さんたちが守ることというよりも、周囲の人々や武士たちが守らなければならないこととして命令が出されているのです。つまりお寺を救うための命令で、大澤寺はお金をはらって、その時の領主に願い出て禁制を出してもらったのです。

禁制の内容は3つで、1つ目は寺の周りや中で乱暴をすること、つまりお寺に攻め込むことを禁止することです。2つ目は殺生を禁断すること、つまり人を殺すようなことは禁止すること、3つ目は竹木を切り取ることを禁止しているのです。

禁制 仁科郷 大澤寺

一 門前や寺の中で乱暴を働くこと

一 殺生を禁断すること

一 竹木を切り取ることを禁断すること

右のことについて停止をする。もしこれに違反する者があればすみやかに厳しい罰を与えることとする。

天正十八年九月四日 出雲守(花押)

この禁制を出した領主が「出雲守」すなわち石川数正なのです。

出雲守の下にサインが書かれています、これを「花押」といいます。そしてこのサインが数少ない手紙のなかで確認できる石川数正のものなのです。

時は戦国時代の終わりに近い天正 18 年 (1590) のこと、石川数正は松本城に入り筑摩郡・安曇郡の領主になっていたのです。なぜ徳川家康のそばで活躍していたはずの石川数正が松本にいたのでしょうか。

天正 13 年 (1585) 11 月 13 日、石川数正は突然家族を連れて家康のもとから逃れ、羽柴秀吉のもとへ身をよせます。なぜそのようなことをしたのか、はっきりした理由はわかっていません。歴史上のナゾともいわれます。いろいろな説があるのですが、史料による決め手がなく、どの説も推測の範囲から抜け出せないのです。大河ドラマでは必ずこのシーンが出てくるはずなので、このナゾの部分をもどのように描くのかとても楽しみにしています。

天正 18 年 (1590)、秀吉は関東を支配していた北条氏を攻撃して滅ぼし、天下を統一します。これによって徳川家康は関東に移されます。家康の家臣であった松本城主の小笠原秀政と父親の小笠原貞慶も関東に移ります。こうして領主がいなくなった松本に秀吉は石川数正と息子の康長を移らせるのです。その理由は、関東の家康の動きに目を光らせるためとも言われます。

かつては家康の懐刀ともいわれた重臣の数正が、今度は秀吉の家臣として家康に対抗する立場になるというのも皮肉というか、ドラマチックというか複雑な心境です。

数正は息子の康長とともに松本城に天守を築こうとしました。ただ数正は天正 19 (1591) 年には京都で秀吉のそば近くにつかえたり、天正 20 年 (文禄元年) には朝鮮出兵で肥前 (佐賀県) の名護屋城 800 人もの兵隊を連れて遠征したりなどして松本にはほとんどいませんでした。そして名護屋城から帰ることなく亡くなり、京都でお葬式があげられます。これが文禄元年 (1592) 12 月のことです。その間も松本城天守の建築は進んでいるわけです。

数正が松本城にどのような思いをもっていたのか、次号で紹介したいと思います。